



立一 田中 議員 並行在来線と 大糸線について

古文書、公文書の 現状について

質 問

東日本大震災を契機に、過去の災害を記した公文書や古文書の価値が見直されているが、市内の古文書把握、保存・管理

や今後の動向について伺う。

また、公文書管理法が施行され2か月余り経過したが、市の公文書の保存の現状と課題は。

市長答弁

市内の古文書の把握については、新潟県立文書館と市教育委員会が、市内の主要な古



実 中村 議員 東日本大震災後の 市の防災対策について

質 問

災害対策について

3月11日に三陸沖を震源に国内観測史上最大のマグニチュード9.0の地震等による「東日本大震災」が発生し、津波、火災などで多くの死傷

者が出た。

市は、洪水や地すべり・雪崩など多くの災害を経験しているが、対策に関しては遅れているように思う。

今回の大震災や、翌朝発生した長野県北部地震を見て、今日までどのような対策を行ってきたのか、東日本大震

並行在来線と 大糸線について

質 問

5月27日、新潟県並行在来線株式会社主催の対話集会において同社が示した北陸本線のディーゼル車の導入や、泊駅での折り返し運転について、市の考えはどうか。

また、大糸線の利用促進の取り組みについて伺う。

市長答弁

ディーゼル車の導入については、新潟県並行在来線株式会社

文書の所在とその概要を調査している。古文書の保存・管理については、寄贈・寄託された古文書は順次目録等を作成している。今後は古文書解読講座を開催するなど、古文書に親しむ環境も整えていきたい。

公文書の保存については、市の文書規程に基づき、保存年限に到達した公文書のうち、歴史資料として重要なものは保存し、それ以外のものは廃棄している。課題としては、職員における文書の統一的な取扱いの徹底と考えている。

市長答弁

震災後、国及び県において防災基本計画と地域防災計画の見直しに向けた検討を進めているところであり、市としては、それらとの整合性を図り、地形などの地域特性を考慮した中で、防災対策等を見直していく予定である。

津波対策については、国、県との整合性を図りながらも、今、実施できる対策から取り

組んでいくことが重要と考え、まずは海岸線近くの公共施設に「海抜表示」を設置した。今後も、震災・津波対策に関する防災会議等を開催し、対策を協議するとともに、地区懇談会や避難訓練の実施など、津波対策の啓発を積極的に行いたい。

各ハザードマップの見直しについては、それぞれの被害想定調査の結果が変わってきた場合には、必要に応じて見直しを行う。

社が、現在の乗客数や列車運行状況を把握した上で、案として示したものと考えている。折り返し運転、相互乗り入れについても、富山県側との協議になるが、市としては地元意見を同社に要望していきたい。

大糸線については、まずは乗っていたことが第一であり、北陸本線等利用促進協議会や大糸線利用促進輸送強化期成同盟会において各種イベント等を実施し、利用促進に努めていく。

《その他質問項目》 ・ 農業関連について



糸魚川市総合防災訓練 地震体験車
(平成23年7月10日
焼山の里ふれあいセンター)